

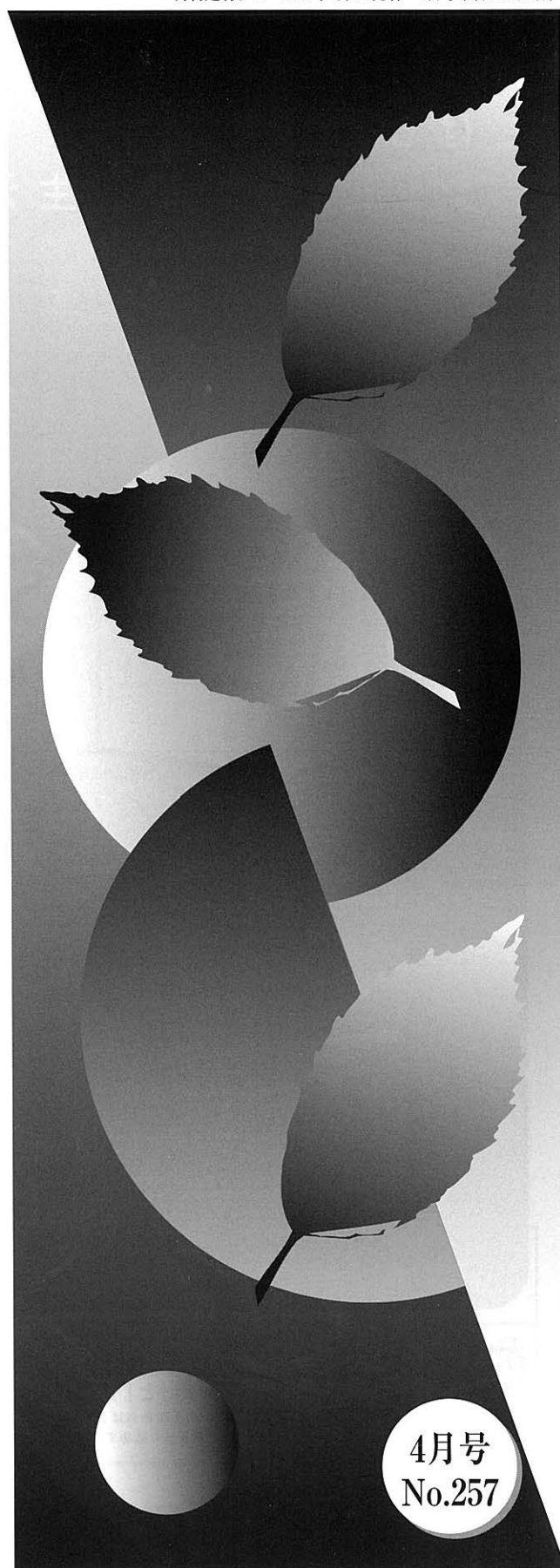
月刊

建材

Navi

特集 高意匠・高断熱・高機能スライディング
ドアで新たな需要獲得を狙う
「住宅用玄関ドア／玄関引戸」

特集 都市再開発プロジェクトの本格化で
活気を取り戻すビル用「オーダー
規格トップライト・ドーム」市場

4月号
No.257

小松電機産業／人間自然科学研究所

日本の「水道の父」と評される明治政府招聘の 顧問技師「バルトン銅像」の制作・設置を提唱

小松電機産業は、クラウド時代の地政学をプラットフォームに、クラウド総合水管理システム「やくも水神」、高速シートシャッター「happy gate 門番」、「人間自然科学研究所」の3つの事業を通じて「対立から共生の文化へ」の転換を提唱、創業50年を迎えようとしている。

小松昭夫社長は、これまでも「水の偉人」の顕彰活動を進めてきたが、今回は日本の「水道の父」とも評され、松江市の上下水道の基本設計にも携わった明治政府が招聘した顧問技師「ウィリアム・K・バルトン銅像」の制作・設置を提唱、賛同者を募っている。すでに2006年にバルトン生誕150年、来松江110周年を記念して、松江市の水がめ・千本ダム近くの忌部浄水場構内に顕彰碑の建立を行っている。

ウィキペディアによると、ウィリアム・K・バルトンは、1856年5月11日スコットランド・エディンバラ生まれ、1881年英国衛生保護協会の主任技師となった。渡欧中であった永井久一郎（永井荷風の父）の推薦を得て、明治政府の内務省衛生局のお雇い外国人技師として1887年（明治20年）に来日、東京市の上下水道取調主任に着任した。同時に帝国大学工科大学（のちの東京大学工学部）で衛生工学の講座をもち、台湾水道の父と評される浜野弥四郎など、何人かの著名な上下

水道技師を育てている。

バルトンの設計は帝都上下水道の基本計画

となり、東京、神戸、福岡、岡山、下関、松江など、全国23の都市の衛生状況の調査や上下水道の設計に関わった。松江市には、1895年（明治28年）7月23日に訪れ、探検調査し8月2日帰京。その後松江市に再調査を依頼し、1899年（明治32年）内務大臣に「サミズ泉を最上の水源地と選定」という調査結果を報告。このバルトンの調査が基礎となって松江市の近代水道が完成したといわれる。

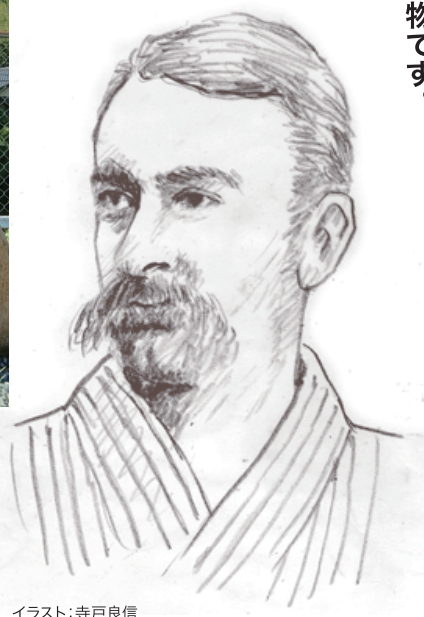
そうした活動ぶりは、「バルトンは教育を通じて日本衛生工学を導入した第一人者で、日本の水道史上は勿論、衛生工学史上もっとも功労のある人物」と評価された。日本での任期を終え1896年（明治29年）に当時の台湾に渡り、台北の上水計画を進めたが、炎暑の中で調査活動を重ねた末に風土病に罹り、1899年（明治32年）8月5日、43歳で死去。その墓所は故郷のスコットランドではなく、東京・青山霊園にある。松江市とも縁の深い「水の偉人」顕彰活動の一環として「バルトン銅像」の製作・設置が提案されている。



一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な
地域を創出することをめざして活動します。

すつと、ふすまが開いた。白地の浴衣（ゆかた）に、へこ帯をきりつと締めた長身の男が現れた。一座、息をのみ、ざわめきが消えた。口ひげをたくわえた細面（ほそおもて）の肌が浴衣地より白い。やや寸足らずの裾（すそ）を合わせる仕草をして、男は着座した。「日本流の席では、この恰好がよほど気楽でいいんです」と、つかえがちなながらも、江戸弁の薫りのする日本語で言った。途端に一同、どっと沸き、杯をもって男を囲み、酒宴が始まった。――1895年（明治28年）7月23日、松江市宍道湖畔の料亭「臨水亭」での一齣を、当時の「山陰新聞」の記事をもとに、小説風に描いてみました。浴衣姿の男の名はウィリアム・キニンモンド・バルトン。今日、「日本の衛生工学・上下水道の父」と称えられる人物です。



イラスト：寺戸良信

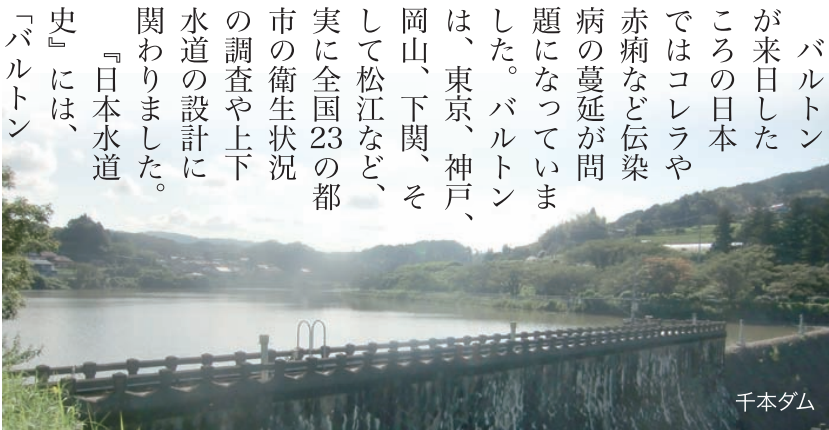
水の偉人② ウィリアム・K・バルトン



バルトン顕彰碑

バルトンは1856年、スコットランドのエディンバラ生まれ。ロンドンの衛生保護協会の上席主任技師をしていた、1887年（明治20年）、日本政府の招きで来日します。いわゆる「お雇い外国人」の技師です。ラファディオ・ハーン（小泉八雲）が、同じ「お雇い外国人」として松江市に赴任したのが1890年（明治23年）ですので、ハーンより3年ほど早く日本に来たこととなります。

バルトンは、内務省衛生局の顧問技師として東京市上下水道取調主任を務める傍ら、帝国工科大学（現・東京大学工学部）で衛生工学の教鞭を執ります。バルトンの講義の人気は高く、のちに日本の衛生工学や上下水道を支える人材を輩出しています。ただ、「いつも酒を呑んでいて、酔ったまま講義をしておられたようです」といった思い出も語り継がれており、浴衣姿で酒宴に臨むことといい、洒落っ気、人間味にあふれた人物だったようです。



千本ダム

バルトンが来日したころの日本ではコレラや赤痢など伝染病の蔓延が問題になっていました。バルトンは、東京、神戸、岡山、下関、そして松江など、実に全国23の都市の衛生状況の調査や上下水道の設計に関わりました。『日本水道史』には、

「バルトンは松江に来たのは、先に記したように1895年（明治28年）のことです。当時の松江も伝染病に苦しんでいました。1882年（明治15年）には359人が罹病、死者251人、1886年（明治19年）には557人が罹病、死者386人と、コレラが猖獗（しょうけつ）を極めていました。水が問題だったのです。1891年（明治24年）、1892年（明治25年）の『松江市水道史』の記録より引きま

は汚水の地中に滲透したるものなり。加うるに下水の設備不全にして排泄十分ならず。一朝、大雨に際会するときは溢水、街路にあふれるを常とす。故に飲料に供せられつつある井戸水は有害分子を含有するは勿論、年月を経るにしたがつて、ついに地層は汚水浸潤のため水質は不良に帰するものなり」。

「市中を貫流する川は、ことごとく緩流にして常に汚濁を帯び、夏季は有機物の腐敗と湖水の混入により水質は一層、劣悪となり沿岸区域に住するものは、この河水によつて飲食物およびその器具を洗浄し、甚だしきは洗面、沐浴、ウガイして怪しまざる慣例あるは、まことに寒心に堪えず」。

7月23日に松江入りしたバルトンは、松江市から事前調査のレクチャーを受けたのち、当時の忌部村左水（さみず）、熊野村大内谷・深山谷、朝酌村目無（めなし）等の探検調査を行い、8月2日に帰京します。帰京後、松江市に再調査を依頼し、1899年（明治32年）、内務大臣に「サミズ泉を最上の水源地と選定」という調査結果（復命書）を報告しています。

当時の松江市の人口はおよそ3万5000人。市の財政規模は3万円台でした。これに対し、バルトンの水道事業の工費見積は15万円。折から、日清、日露の両戦争で財政が圧迫され、工費の捻出は困難でした。このため、バルトンが描いた計画は棚上げされることになってしまいました。

しかし、その後、歩兵63連隊の古志原設置、山陰線松江駅開業（1908年・明治41年）などによる人口増が見込まれるようになったため、松江市は東大

教授・中島鋭治工学博士に、水道敷設の調査と設計を依頼しました。中島はバルトンの教え子です。

中島はバルトンが主張したとおり、水源地を忌部村左水と定め、1914年（大正3年）着工、1918年（大正7年）3月完工、6月より給水が始まりました。バルトンの調査が基礎となつて、松江市の近代水道が完成したのです。

そして、中島の教え子で、松江出身の九州帝国大学教授・西田精の指導によつて拡張されていきました。

余談ながら、バルトンは実に多才な人物でした。建築技術・設計にも長け、エレベーターを備えた日本初の高層ビル「凌雲閣」（通称「浅草十二階」。1923年・大正12年の関東大震災で崩壊）はバルトンの設計によるものです。

また、写真家としての業績もあります。当時の乾板を発明したロンドンの写真技術者のひとりとして称えられています。来日してから写真家として活発に活動し、東京の風物や相撲、庶民の生活ぶりなどを撮影し、欧米に紹介しています。1888年（明治21年）の磐梯山噴火、1891年（明治24年）の濃尾地震など大災害に際しては、記録写真を撮影し、後世に残しています。さらに、1889年（明治22年）に結成された、日本初のカメラマンの同好会「日本写真会」の創立メンバーにもなっています。

日本での任期を終えたバルトンは、1896年（明治29年）、日本の植民地となつたばかりの台湾に渡り、台北の上水計画を進めます。前回紹介した水の偉人・八田與一が台湾に渡

る四半世紀ほど前のことです。しかし、炎暑の中の調査活動を重ねた末に、不運にも風土病にかかり、1899年（明治32年）8月5日、43歳で亡くなつてしまいます。墓地は英国ではなく、東京の青山霊園にあります。

バルトンの一番弟子といわれる浜野弥四郎は、台北の水道資源地にバルトンの銅像を建てました。その除幕式で「この世に生を享けた者で生命の悠久を願わない者はいない。どうすれば、そうなるか。『自己の天職を尽くして之を全うするもの、直に生命の悠久を保持する所以なり』。バルトン先生は、まさにそういう人であつた」と述べています。

「自己の天職を尽くして」とは、多くのスコットランド人が座右の銘とする言葉とのことですよ。

2006年（平成18年）、バルトン生誕150年、来松110周年を記念して、松江市の水がめ・千本ダム近くの忌部浄水場構内に顕彰碑が建てられました。

ちなみに、古代において勾玉を洗ったと伝えられる、忌部左水で汲み上げられた水は、「松江古代水」として松江市上下水道局から売り出されています。

（交易場 修）

参考：『松江市水道の恩人、お雇い外国人技術者W・K・バルトン』岡崎秀紀・浴隆博

このたびの、北関東、東北地方の水害で亡くなられた方々に心よりお悔やみ申し上げます。また、被災された方々の一日も早い復興をお祈りいたします。